

平成22年度 鴨川アクションプランフォローアップ委員会の概要

■開催日時

平成23年2月3日(木) 13:30～15:20

■場 所

京都府公館 「レセプションホール」

■出席者

委員 9名(敬称略、五十音順)

中川 博次 (京都大学名誉教授) [委員長]

丘 眞奈美 (京都ジャーナリズム歴史文化研究所代表、放送作家)

勝矢 淳雄 (京都産業大学教授)

金田 章裕 (京都大学名誉教授、大学共同利用機関法人 人間文化研究機構長)

戸田 圭一 (京都大学防災研究所教授)

町田 玲子 (京都府立大学名誉教授)

水野 歌夕 (写真家)

吉村 真由美 (独立行政法人 森林総合研究所主任研究員)

(欠席)

川崎 雅史 (京都大学大学院教授)

■資 料

【資料1】 「鴨川下流域整備を考えるシンポジウム」開催報告

【資料2】 平成22年度の鴨川・高野川における河川整備状況について

【資料2-2】 三条大橋～御池大橋間の右岸高水敷整備について

【資料3】 鴨川緑地の都市計画変更について

【資料4】 鴨川の中州について

【資料5】 鴨川における自然環境等のあるべき姿について

【参 考】 水辺の回廊整備・鴨川創造プラン(平成21年3月)、鴨川アクションプランフォローアップ委員会設置要綱

■開会・委員の紹介

開会挨拶、委員紹介、設置要綱に基づく委員会の進行、評価・検証方法等について説明

■議 事 (主な発言内容)

◇「鴨川下流域整備を考えるシンポジウム」開催報告について【資料1】

平成22年3月20日に開催した「鴨川下流域整備を考えるシンポジウム」について報告
(委 員)

「鴨川府民会議」に対しては、どのような説明が行われているのか。

(事務局)

公共空間整備基本プランのとりまとめにあたっては、鴨川府民会議において、作成段階の節目・節目で説明し、個別の計画について、専門家や公募委員の意見をお聞きしながら進めている。会議のやりとりは、ホームページにも掲載している。

(委 員)

府民会議は公開している。特に中州管理については会議の中でも様々な意見があったが、複数回の議論を経てとりまとめを行ってきた。府からは丁寧な説明が行われている。

(委員):

シンポジウムの意見の中に、「全国都市河川サミットを開催してはどうか」とあるが、鴨川における取り組みを発信したり、他府県との情報交換を行うことなどは興味深い。学会や大学と共催して開催するなどすれば面白いのではないか。

(委員)

シンポジウムの意見の中に、「文化的・歴史的視点が欠けている」とある。以前、鴨川に架かる橋の高欄に京都府内産の木材を使用してはどうかと意見したことがあるが、進捗はどうか。

(事務局)

京都府では、府内産木材を幅広い分野で使用する取り組みはあるが、現時点で、鴨川における使用の具体的な検討は進んでいない。鴨川府民会議において、橋の下の有効活用について意見をいただいております、活用について検討を進めていくことを考えている。

◇平成22年度の鴨川・高野川における河川整備状況について【資料2】【資料2-2】

アクションプランに基づく、平成22年度の整備内容について説明

(委員)

中州工事のようすはどうか。

(事務局)

昨年度は、整備計画検討委員会で意見をいただいてまとめた管理方針に基づき、中州の除去を行った。管理方針としては、二条大橋より下流は全面的に除去、上流は8割程度の除去としている。七条大橋より下流は、現在河道検討を行っており、河道改修と併せて対応することとしている。

(委員)

下流域の改修は、いつ頃から着手していく予定か。

(事務局)

現在、下流の改修予定区間の河道設計中である。工事については、アクションプランでは、平成25年度から設計及び地元調整が整い次第、着手する予定である。

(委員)

現在、三条大橋から御池大橋間の高水敷工事を行っているが、高水敷が広がるのか。

(事務局)

園路、芝生広場の工事を施工しており、高水敷の幅や高さに変更はない。

(委員)

中州除去を行った箇所において環境調査を実施しているが、調査項目等の内容はどのようなものか。

(事務局)

調査項目は、底生生物の定量・定性調査、ゲンジボタルの幼虫調査及び植物の植生・植物相調査を実施している。

◇鴨川緑地の都市計画変更について【資料3】

鴨川緑地の区域拡大(五条大橋～三条大橋間)について説明

(委員)

公園整備のメニューにベンチなども含まれるのか。北大路橋周辺では、住民の要望によりベンチ等が設置されたと聞かすが、この区間ではどうするのか。

(事務局)

土系舗装の園路、芝生広場の整備を行う。御池大橋から五条大橋間の右岸高水敷については、凹凸で歩行しにくいいため、利用しやすい形状に整備を行う。ベンチ等の設置については、治水上の安全も考え、利用者の意見等も聞きながら検討する。

(委員)

公園区域からみそそぎ川を除外する意味を説明願いたい。区域を外すことにより、より公園目途以外の利用を助長することにならないかと心配する。従来は公園区域であったのに、今回除外する考え方については理解しにくい。

(事務局)

みそそぎ川には納涼床が設置され、オープンスペースなど公園としての機能がなくなる時期がある。また、この範囲は、河川法での利用規制が可能であるため、無秩序な利用はできないと考えており、除外とした。

(委員)

除外する理由としては弱いように思う。規制が外れるような印象を受ける。

◇鴨川の中州について【資料4】

昨年度から実施している中州管理について説明

(委員)

底生動物の調査は、同じ場所で継続的に実施するのか、場所を変えて実施するのか。

(事務局)

来年度も同一箇所において調査を予定している。調査項目は種数のみを考えている。また、今年度の中州管理を行った箇所は、来年度、今回報告したような調査を実施する。

(委員)

環境調査の時期は、いつ頃を考えているのか。

(事務局)

底生生物調査は今年5月と9月、植物調査は9月に実施する予定である。昨年度に中州管理を実施した4箇所については、秋に実施を予定している。

(委員)

二条大橋上流の中州が、昨年7月の出水後に消失しているが、出水によって流失したということか。

(事務局)

出水による掃流効果や、下流区間で前年度に実施した中州の除去によって流れが変わったことが中州流失の要因の1つと考える。固定化した中州の土砂が、出水や中州管理のインパクトにより動き始めたと思われる。今後も、試行錯誤しながら、治水面と環境面を調和させた中州管理を進める。

◇鴨川における自然環境等のあるべき姿について【資料5】

「鴨川のあるべき姿」構築に向けた情報収集について説明

(委員)

守っていききたい動植物と、守っていきたくない動植物の区分けはどのように考えるのか。

(事務局)

学識者の御意見をお聞きする場を設け、そうした区分けについて検討したいと考える。その上で、府民会議にも報告し意見を聞いていきたい。

(委員)

環境に関しては様々な意見があり、全てを盛り込むことについては難しいことも承知している。小学生の頃、出町の河川敷にツメクサが群生していたが、ある時、全面が芝生になりショックを受けた。あまり極端な改変は避けるべきでは。

(事務局)

専門家の意見を踏まえて検討していきたい。マップの製作等においては、公表を前提として検討を進める。

(委員)

ホームページ上のギャラリー等は面白い考えである。広報はホームページのみであるが、最近流行っているツイッターなどを活用するのも効果的。若者への発信などにより、多くの情報が得られるようになるのではないかと。ブログや携帯電話を活用するのも有効である。

(事務局)

鴨川をどう広報していくか模索中である。ホームページだけでなく、様々な手法を考えたい。

■講評

(委員)

中州管理は良い方向で進んでいると考える。方向性には様々な意見があると思う。北大路橋から御菌橋付近をよく見るが、付近では「きれいになった」という声をよく聞く。

(委員)

鴨川府民会議も丁寧に運営していただき、鴨川に対する様々な意見を聞く場として有効と考える。政策を決める前段階からの様々な情報提供を行い、府民の意見が聞ければ整備に関してプラスになると考える。

(委員)

意見が出しやすい工夫づくりが大事である。鴨川で32件の意見は少ない。広く意見を聞ける工夫を引き続き検討していただきたい。

(委員)

現状を大事にしつつ、新しい鴨川づくりに取り組んでいただきたい。

(委員)

若い世代に鴨川を継承していく仕掛けが必要である。川と森の関係は、歴史的、文化的、エコ教育的にも深い。橋梁のみならず、ベンチ、公園の遊具などに、府内産木材を活用することも考えていただきたい。

(委員)

基本的には問題ないと考える。中州除去と出水で、中州が大きく動いている。継続して調査を進め、どれくらいの洪水で、どこで、どのような変化が起きるか。また、どのような現象が起こったのかというデータを蓄積しておくことが大変重要である。水理現象等についての調査はしっかりと行っていくことを要望する。

出水時に、ホームレスの小屋が流失したり、護岸の一部が崩壊したようだが、それらが漂流し、二次的な被害を起こす危険性もある。災害状況をしっかりとおさえていくことは、様々な面で役立つと考える。

(委員)

ツイッターの世界の中でも京都、鴨川ファンは多い。出来る範囲で検討されたい。外来種のセイヨウカラシナなどは美しく、撮影することもある。守っていく植物とそうでない植物の区分け等むずかしい点があるが、慎重に検討していただきたい。

(委員)

各委員から、全体として概ね良好に整備が進んでいると講評をいただいたと考える。鴨川は歴史・文化に密接に関わっており、京都の誇りでもある。整備が進んだ段階で、都市河川のあり方に関するシンポジウムを開催し、鴨川の存在価値をさらに高めることや、成果・取り組みを示すことが重要である。

中州管理については、非常に難しいが、洪水などのデータをしっかりと調査し、蓄積することで、自然の力を上手く引き出すような計画も立てられると考える。それを、次のステップの計画や工事に活かし、財政的に厳しい状況においても、知恵を出して進むべきだと考える。

環境については、変えたくないものもある。どこまで人間が手を加えることが許されるのかを見極め、自然共生をしているという理念を持って整備を行うということが重要であると考えられる。